

ALCS学修行動調査による教育成果の把握

○伏谷 建造¹, 栗林 太², 森谷 卓也³, 砂田 芳秀⁴

川崎医科大学 ¹IR室、²医学教育センター・生化学、³IR室・病理学、⁴教務担当副学長・神経内科学

背景 と 目的

教育成果・学修成果の把握とその可視化は、医学教育の質改善を推進するうえで、重要な評価指標となっている。本学では、functional GPA の導入により、教育成果・学修成果の直接的な効果の主要な部分が可視化され、学生・保護者・教員により共有されている。しかしながら、教育・学修に伴う間接的な効果については、全学的な視点から測定されておらず課題であった。

今回、本学の教育が学生にどのような効果を及ぼしているのか、また学生が入学後どのような学びをなしているのか、GPAと関係があるのかを明らかにし、授業の改善から教育の質の向上につなげることを目的として、学修行動調査を行った。



方法

<調査対象者>

2017年度在学 1年 (138名)、3年 (134名)、5年 (117名)

<調査内容>

設問は教学比較IRコモンズ (12大学参加) によるALCS学修行動調査2017を使用。設問は回答者属性と5つのカテゴリ (経験、時間、成長、満足、希望) に関する87問。6段階または7段階の選択肢。

<調査方法>

学生にメールによる周知、リマインダー送付、担任や講義担当者の協力。本学のポータルサイトより認証システムを介して教学比較IRコモンズに入り、回答。本学の回答結果は、2週間後に教学比較IRコモンズより取得。

<実査期間>

2018年1月5日～1月19日

<集計と分析の方法>

成績指標には学年GPAまたは累積GPAを用いた。他大学との比較では、参加他大学の度数データから本学の度数を差し引いた値を用いた。ポジティブな回答からネガティブな回答に向けて3,2,1,-1,-2,-3としてスコア化。ただし、選択肢が7つの場合には、真ん中を0とした。

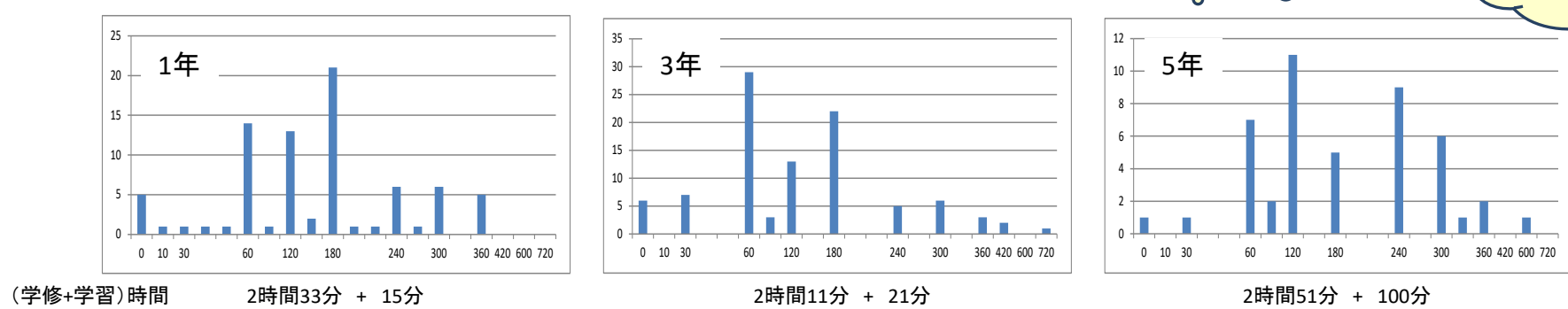


結果 と 考察

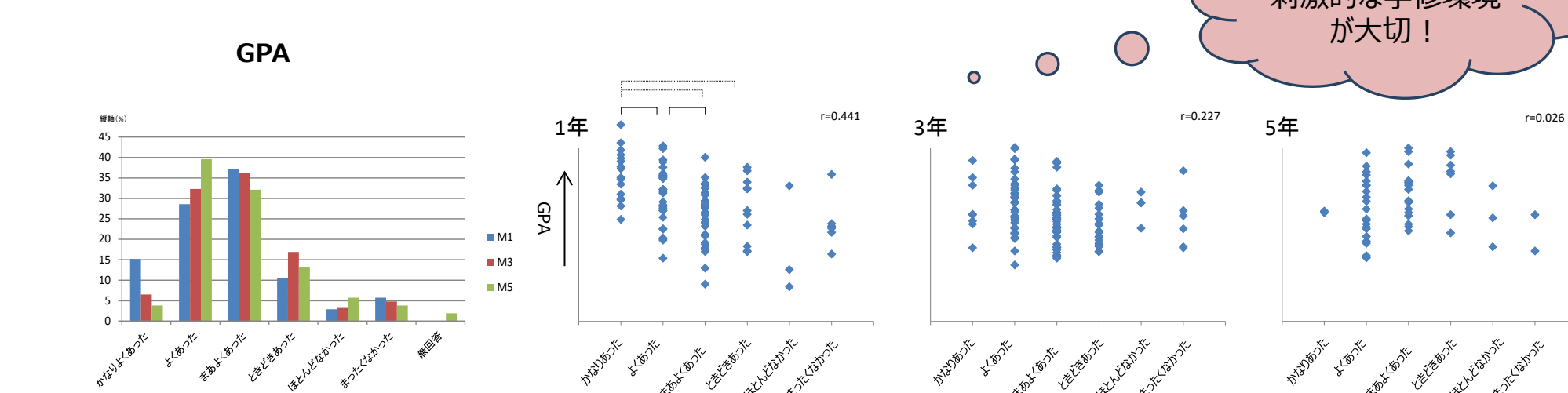
A

回収率 1年78.1%、3年96.3%、5年47.0% (平均75.0%)
実質回収率 72.2% (選択肢回答において回答率が60%以上を有効回答とする)

B



C



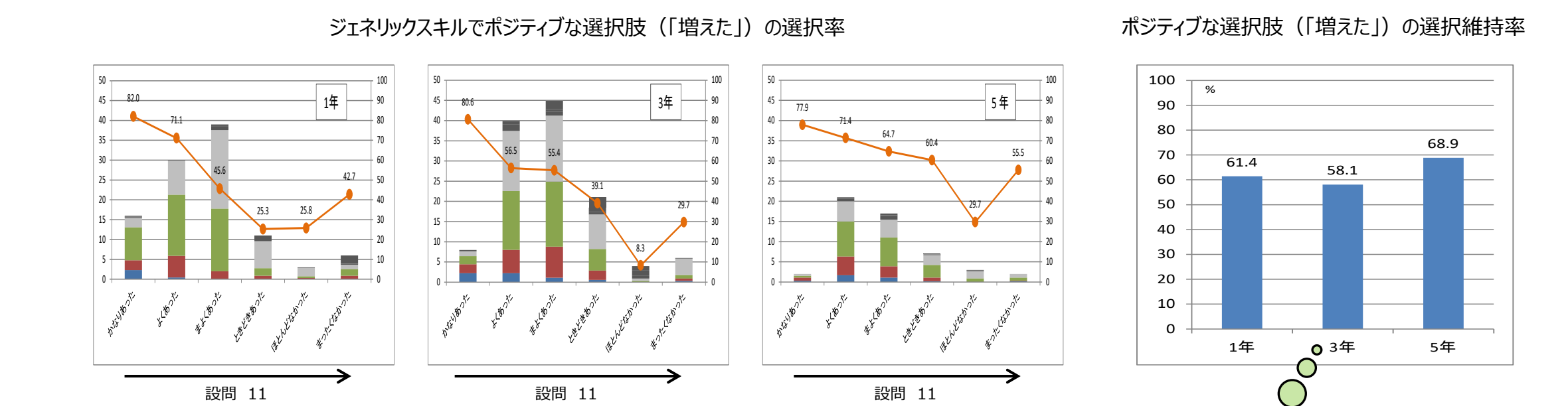
結論

ALCS学修行動調査により、学修成果・教育成果について、個別的・包括的な情報が得られ、指標化が可能となった。

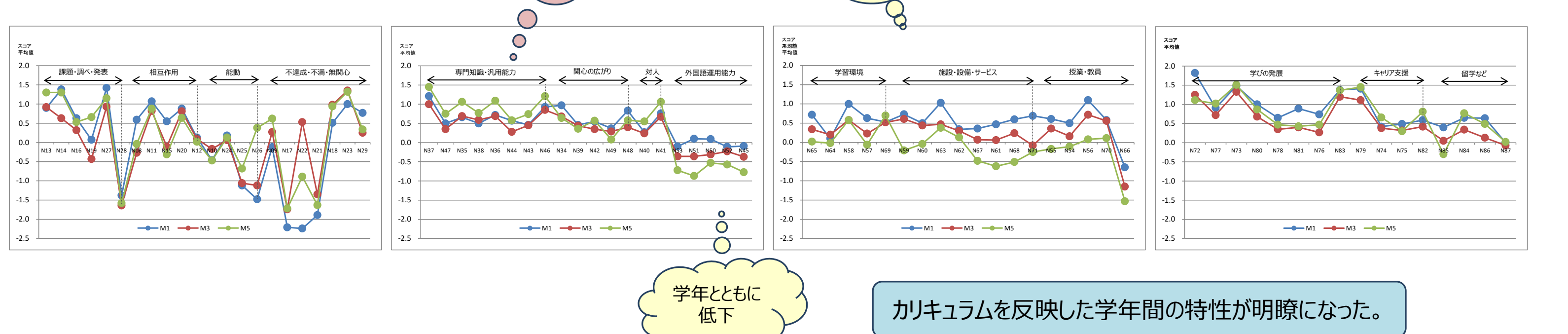
1. 学修成果・教育成果を把握する仕組みが調えられ、間接指標が得られた。
2. 学年間の比較が可能となった。
3. GPA等の直接指標と連結し、総合的な把握が可能となった。
4. 継続的な調査により、個人レベルでの学修成果の推移を把握することが可能となった。
5. 他大学をベンチマークすることで、本学の教育成果を総括的に振り返り、改善につなげることが可能となった。

考察

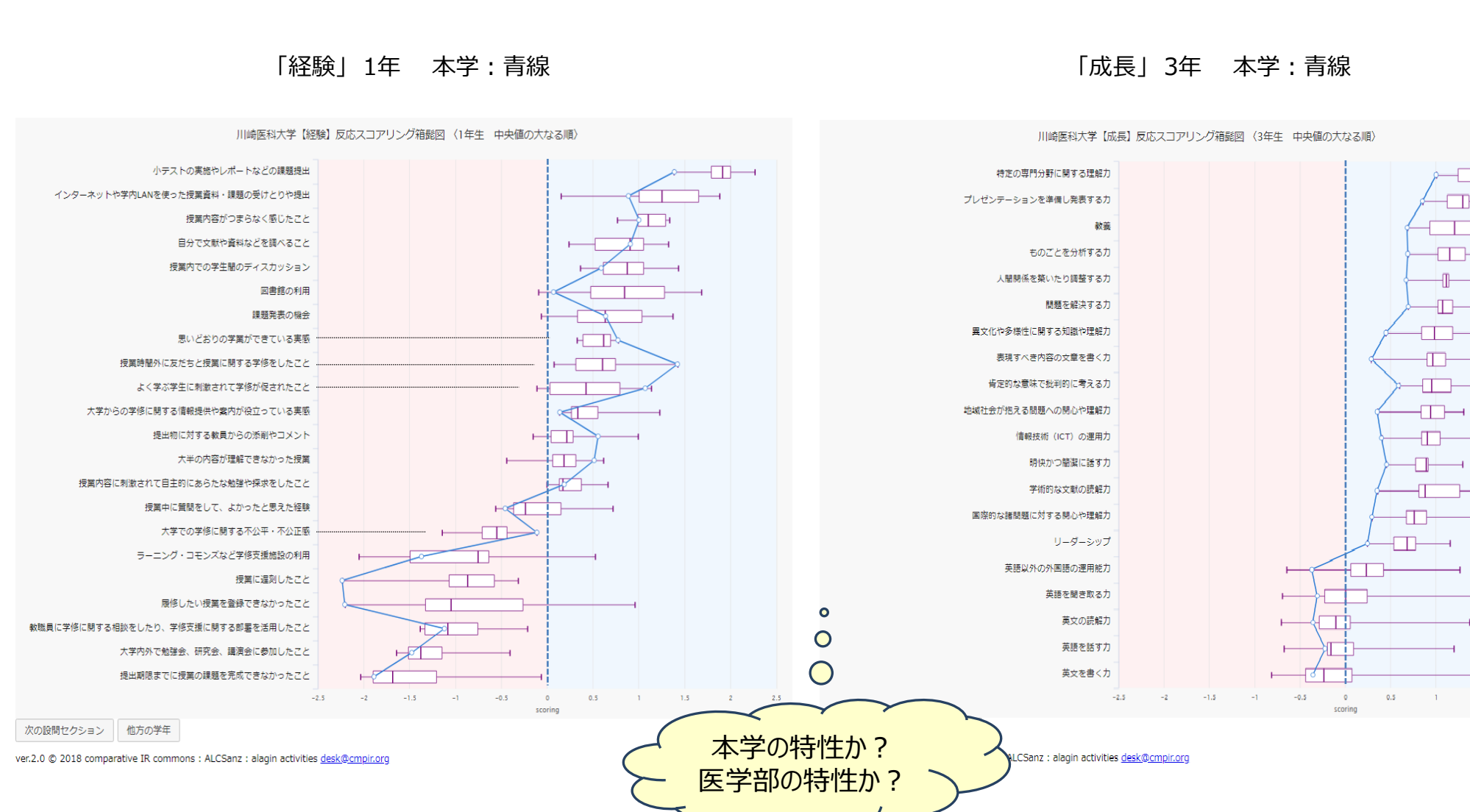
ジェネリックスキル	1年					
	とても減った	減った	やや減った	変化なし	やや増えた	増えた
とても減った	0.22	0	0.22	0.89	0	2.11
減った	0.11	0.11	0.22	0.11	0	0
やや減った	0.22	0	1.00	0.44	0.11	0.22
変化なし	2.33	8.56	19.8	6.78	2.11	1.11
やや増えた	9.33	15.4	15.8	1.89	0.44	1.67
増えた	2.44	5.44	1.89	0.89	0.22	0.89
とても増えた	2.33	0.44	0.11	0	0.11	0



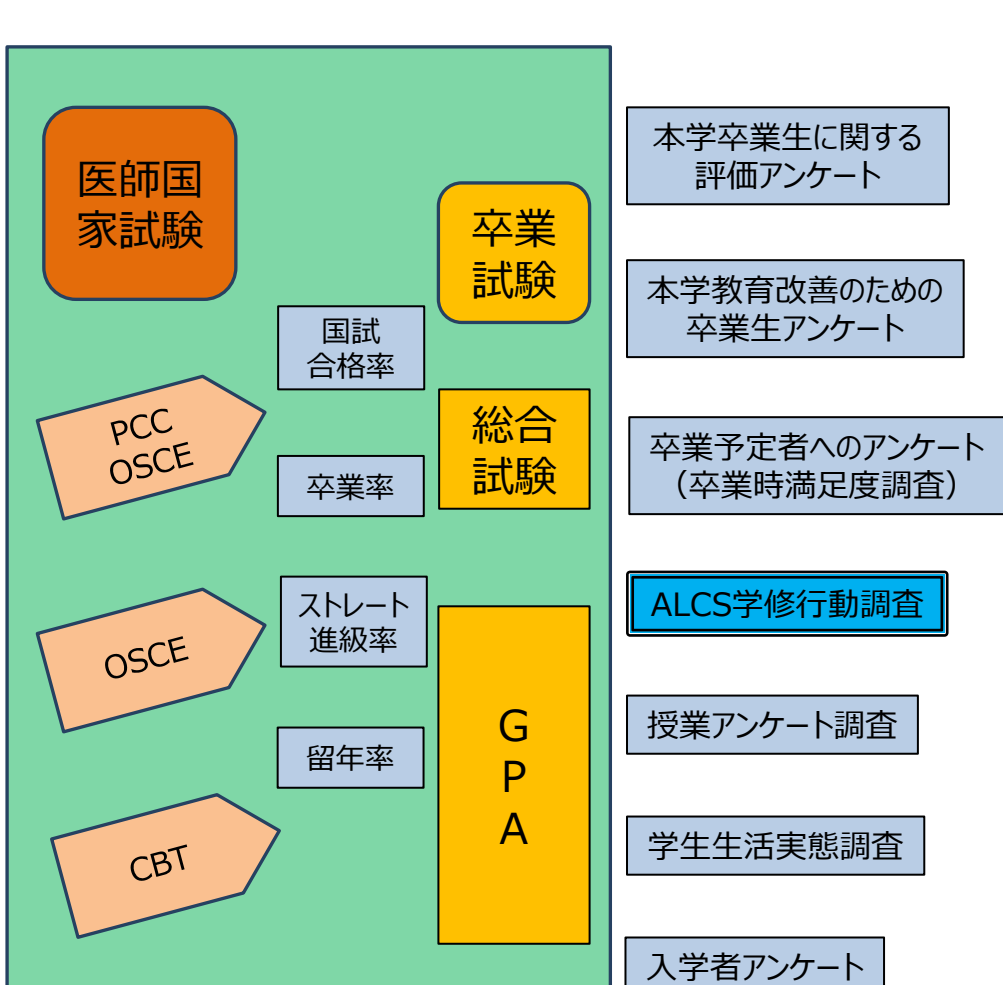
D



E



F



COI 本演題に関し、開示すべき利益相反関係にある企業・組織・団体はない。